

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 6 日作成)

小委員会名	環境振動制御情報小委員会		主 査 名：増田圭司 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (環境振動運営委員会)		委員長名：加藤信介 主 査 名：石川孝重
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2007 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種制振技術の概要や適用事例に関する情報を収集し、その成果を広く会員に展開し、居住性など環境振動問題全般の対策技術の向上に寄与する ・ 2006 年度は振動源別に抽出したいいくつかのモデルケースに対して、対策事例集の案を作成する。 		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：公募により 1 名追加済(洞宏一委員：特許機器)		
	増田圭司(フジタ)、田中靖彦(ハザマ)、吉岡宏和(竹中工務店)、五十子幸樹(日建設計)、石橋敏久(鹿島建設)、川久保政茂(東急建設)、小林真人(飛鳥建設)、鈴木健司(清水建設)、高津勲(産業環境管理協会)、蓮見敏之(リオン)、林健太郎(アクト音響)、藤橋克己(前田建設)、本間剛(日建ハウジング)、益田勲(日本交通技術)、洞宏一(特許機器)、計 15 名		
設置 WG (WG 名：目的)	なし		
2006 年度予算	10,000 円	ホームページ公開の有無：有(運営委員会 HP に議事録を公開) 委員会 HP アドレス： http://www5e.biglobe.ne.jp/~hamaken/HamaLab_H.P/kankyou/index.html	

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 対策事例集の作成 2. 事例集に対応する資料の検討 3. シンポジウムに向けた全体構成の検討(予定)
委員会活動の問題点・課題	1. 実務者のみの委員会であるが、2ヶ月に1回のペースで委員会が開催でき、有意義な議論がなされている。 2. この議論の内容を分かりやすく伝えられるよう、まとめていきたい。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。

* 環境本委員会傘下の小委員会においては、上記の活動成果報告書に加えて、以下の自己評価を記入すること。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2006 年度 小委員会活動 自己評価
(最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A B C D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>今期の目標通り、振動源別に抽出したいくつかのモデルケースに対して対策事例集の案を作成した。</p> <p>次に対策事例を検討し、フローチャート案を検討した。</p> <p>なお、本小委員会は次年度以降も2年間継続し、2008年1月のシンポジウム開催を目標とし、事例集の整備、資料の整備を進めている。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。